

山形県 出羽三山

16.

# 花の月山 walk 2002.7.27.

高山植物が咲き乱れる山上の縦走路



mamoon.htm 2002.7.27. by M. Nakanishi

16.1. 高山植物の咲き誇る月山 walk

16.2. 月山の花 夏



8.27.〔土〕晴れ 今日を逃せばまた今年も行けぬ。  
是非一度は行ってみたい山上のお花畑。ずっとあこがれていた出羽三山 花の月山に行ってきました。

晴天に恵まれ、姥が岳から月山山頂へ続く縦走路では雪渓を抱く月山の山容をバックに足元にはチングルマ・ミヤマリンドウがそしてニッコウキツゲの群落



ニッコウキツゲの群落



ミヤマウスユキソウ

ふっと岩陰を見るとウスユキソウが清楚な花をつけています。

月山のお花畑は素晴らしいと聞いてはいましたが、山上の縦走路は本当に素晴らしい花の縦走路。 goo でした。

早池峰では時期が早くて一つしか見れなかったウスユキソウが群れをなして岩陰で咲き誇っていました。もう この花がしっかり見られただけで満足・満足。早池峰から月山・鳥海山など東北の限られた山そして礼文島でしかない和製エーデルワイス。思わず エーデルワイスの歌口ずさむとともに もう一つのエーデルワイスの歌とあのサウンドオブミュージックの山越えの場面を思い出していました。また このニッコウキスゲの満開の群落も八幡平の縦走路以来。



西山町の月山口 姥沢リフト上駅から姥が岳へ登り、山上の縦走路を牛首の大雪溪の上端を通過して月山頂上へ。そして頂上から縦走路をさらに北へなだらかな尾根筋を仏生池を経て鶴岡・羽黒山側の弥陀ヶ原八合目登山口へ山並みと咲き誇るお花畑を眺めながらの素晴らしい山旅でした。

ゆっくり花を見ながらの気楽旅、八合目駐車場 4 時 10 分発のバスに 10 分の乗り遅れ。ドライブウェイを歩いて下る羽目に・・・。

途中で下ってきた地元の熟年のワゴン車の親切な 5 人グループに拾ってもらって鶴岡へ

「夜中になるよ」と散々車の中で冷やかされましたが、車で 1 時間弱。途中ほとんど人家なしでしたから本当に助かりました。

こんな事もあって スピード登山でしたが 高山植物の宝庫「月山」は本当に印象的な walking でした。



「月山」やっぱり みんなが言うとおり素晴らしい花の名山

今 ブームの山なので歩くのも大変かと思いましたが、それほどじゅづつなぎでもなし。

人の多さなど気にならぬお花畑の縦走路でした。そして 東北の人情も・・・

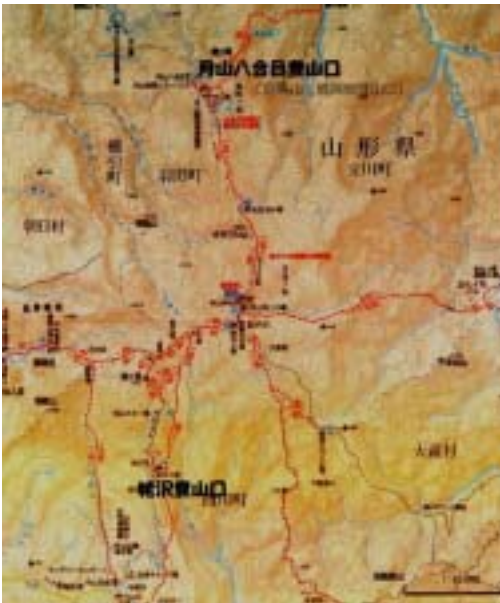
唯一県庁の所在地にたった事のない未知の県「山形」だったのですが これで全国すべて完了。終止符。鶴岡の中心部の川に沿って散策しながら鶴岡駅へ。 明治の古い洋館建の美しいカソリック教会の建物を見て 鶴岡駅 6 時 20 分の特急に飛び乗り、日本海へ沈む夕日を見ながら新潟・東京へ。様子も判ったし 次は出羽三山 ゆっくり時間かけて 秋にでももう一度と思っている。

## 16.1. 高山植物の咲き誇る月山 walk



月山頂上付近のお花畑と月山縦走路 2002.7.27.

### 1. 山形駅から高速バスで月山登山口 姥沢へ



月山 縦走路地図

月山口・姥沢登山口・姥が岳・牛首一月山頂上  
・仏生池小屋・弥陀ヶ原・鶴岡側月山八合目登山口

まあ あかんかったら山小屋で泊まればよい  
月山は修験道の山 今も信仰の登山が続いて  
いるので、山上で泊まるのに困らぬはず・・・  
ということで 6時35分山形新幹線に乗り、  
山形へ。

朝4時半に飛び起きて いつもの朝 5時15分柏発の電車で  
上野へ。「新潟廻りで鶴岡へ行くか 山形新幹線で山形へでて、  
そこから高速バスで月山口へ行くか」の踏切りつかず。

ポピュラーなのは鶴岡からバスで新八合目登山口・弥陀ヶ原  
から歩きだすのが一番楽で帰るのも楽。しかし、朝早くしか  
新八合目登山口行きのバスはなく、タクシー使わねばならぬ。  
一方 山形廻りだと西山町月山口・姥沢登山口から歩き出す  
と昼過ぎになり、鶴岡側のバスの時間と競争になる。頂上か  
ら引き返すのもしゃく。

ガイドブックによると月山

の縦走路と同時に新八合目登山口の弥陀ヶ原湿原の素晴らし  
さも月山の魅力の一つ。是非足を踏み入れたい。



お花畑が広がる姥が岳から月山頂上への縦走路  
2002.7.27.

山形駅に降りるのは初めて・・・。

今日 山形駅に降りる事で都道府県庁の所在地全てに足跡を印す事になる。

9時10分山形着。山形駅では蔵王へ行く人は多いが、月山口を通過して鶴岡までの高速バスに乗る人影無し。ほかに何かあるかも・・・の思惑はずれで10時まで待つ。

山形の駅前はずっと小さいと思っていましたが、新幹線が開通して大きな街が出来、何処にでもある地方都市の駅前の感じ。もっと山を越え、谷あいをぬって走る汽車。そして山間に広がる小さな盆地と

思っていたのですが、相反して最上川沿いに広がる広大な盆地。

描いていたイメージとは随分違っていました。新幹線のみならず、高速道路が街を貫き、東京・仙台そして日本海側の鶴岡・酒田へとつながっている。



山形-鶴岡 高速バスの車窓から  
山形盆地と大河最上川 2002.7.27.

もはや僻地のイメージ無し。そういう意味では 半導体・

エレクトロニクス産業が山形はじめ、郡山・福島・仙台・米沢・山形と南東北を僻地から開放した功績は大きいのだろう。出かける機会のなかった僕の方が認識不足。

高速バスの中、広大な山形盆地の町並みや最上川の流れ眺めながら、そんな事を考えていました。



西山町 月山口



姥沢登山口

昼までに登山口まできたので、リフトに乗って姥ヶ岳登山口駅までリフトに乗って高度をかせげば、月山頂上を経て 北の鶴岡側 弥陀が原新八合目登山口まで縦走できそう。雲は多いものの青空が広がり、絶好の walking が望めそう。

ニッコウキスゲとウスユキソウが見れば それだけで goo。

これで山形にもしっかりと足を踏み入れ、都道府県庁の所在地全てに足跡を残すこと完成。

その中心にある出羽三山・月山への walk へ。

鶴岡行き的高速バスで約 30 分ほど過ぎると山形盆地を抜け、山中へ入ってゆく。雲に隠れ山並みは良く見えないが、月山の麓へ分け入り、まもなく月山湖が見え隠れし、雪溪が見える月山が雲の中に見え隠れするようになり、月山口に到着。降りたのは私ともう一人やはり月山へ行く中年の男性の二人だけ。姥ヶ岳登山口への道が直角につけた街道筋にドライブインはあるものの月山湖を見下ろす山の中次々と車が月山へと登ってゆくが、迎えにきてくれる西山町のシャトルバスを待つしかなし。

小さなシャトルバスに乗って姥沢登山口に着いたのは12時前。駐車場には大型の観光バスと車そして観光客があふれ、今が月山の花のシーズンである事を思い知る。そしてその向こうに頂上部を雲の中に入れた月山の山塊の一部が見える。



リフト頂上駅 姥ヶ岳登山口

## 2. 姥ヶ岳登山口・姥ヶ岳

リフトを降りると正面には姥が岳が眼前に迫り、その右には頂上を雲に突っ込んだ月山の山体が見える。もう樹林帯を抜け出ているので、駅を一步外に踏み出すともうそこはお花畑が広がり、遊歩道は観光客と登山者でごった返している。

ここからは尾根筋に姥ヶ岳に登り尾根筋を縦走して月山頂上へ行くコースと姥ヶ岳を巻きながら大雪渓が下に広がる月山と姥が岳の鞍部で尾根筋か来た道と合流するコースがあり、いずれのコースもお花畑を楽しみながら歩いて約2時間で頂上に至る。

多くの人並みを避けて すぐに姥ヶ岳への縦走路に入り登り出す。



姥沢リフト上駅 姥が岳登山口からの登り



姥ヶ岳の縦走路で

道の両側にはお花畑が広がり、緩やかな姥ヶ岳山腹の登り道が頂上まで続いている。

その縦走路から右側には姥ヶ岳から月山への稜線からカール状に落ち込んだなだらかな広い谷が広がり、雪渓が下へ裾野を広げている。その谷の向こうに頂上を見え隠れさせながら月山がどっしりと座っている。また、この谷には先ほど分かれた姥ヶ岳を巻きながら月山へ向う道がつけられており、米粒のような人の列が見える。振り返ると眼下に登って来たリフト駅越しに月山湖・西山町の家並みが周囲の山々の中におさまって遠望できる。

楽しみにしてきたお花畑は周囲山腹全面。いたるところで数々の高山植物が花を咲かしている。岩陰の崖の下にはチングルマの群落広がっている。

緑の絨毯の中に点々と白い花が咲き乱れている。ふと道?上を見あげるとニッコウキツゲ。あちこちで黄色の花が見える。



姥が岳への登山路で

チングルマの群落があちこちで

2002.7.27.

頂上が見通せるようになって 足元がゴツゴツした岩くずが多くなってきた頃 ふっと足元を見るとウスユキソウ。

良く見ると道?両側の緑の中 あちこちにボツボツと数株の花が咲いている。早池峰では まだ時期が早く 花をつけているウスユキソウを数株しかみられず、残念でしたが、もう 今回はバッチリ。念願かないました。



日本のエーデルワイス 「ウスユキソウ」 登山路の足元で

飯豊・朝日 そしてこの月山 そして 早池峰より以北の山でしかみられぬ日本のエーデルワイス。思わず「エーデルワイス」の歌口ずさんでいました。また 映画「サウンドオブミュージック」で歌われたもう一つの「エーデルワイスの歌」とスイスの山越えのシーン。

ちょうど 月山の縦走路と全く同じ光景。座り込んで 映画のシーン思い出しながら、月山へと続く縦走路とウスユキソウを交互に見てました。

時間的にはもう遅いのですが、このウスユキソウに露がついていれば最高なんですが・・・これも見つけました。

縦走路を歩いている人はみんなニッコウキツゲの群落に眼を奪われて ウスユキソウに見入っている人なし。ニッコウキツゲなど何処でも見られるが、ウスユキソウなど中々みれないのに・・・。

後日談なのですが、姉がお盆にやってきて 枚方で山野 草を育てている友達の本を持って来たのですが、その中にウスユキソウ バッチリ。もう街でウスユキソウも栽培される時代に・・・。

でも 山の尾根にひっそりと咲くウスユキソウ 自然の中で見るその姿とそこから広がるイメージは街の山野草では絶対に得れない。



姥ヶ岳の登山口から約 45 分弱で姥ヶ岳頂上。広い頂上近傍はもう見渡す限り ニッコウキツゲの大群落。昨年 八幡平で出会って以来の大群落。その向こうに雪渓を抱いた月山とうねうねと続く稜線の縦走路が素晴らしい。雲と霞のため、周辺の山々は良く見えないが、余計に月山を中心としたこの羽黒三山の山塊が堂々としていて、その山上に繰り広げられる花の縦走路とともに花の百名山のトップにランクされるにふさわしい。

姥が岳頂上周辺 ニッコウキツゲ` の群落



姥が岳頂上はニッコウキツゲの大群落

### 3. 姥が岳 頂上 ・ 牛首 ・ 月山 大雪渓 ・ 月山 頂上



姥が岳・月山への縦走路越しに月山を望む 点々とハイカー・白装束のお山参りの人の列

姥が岳頂上からは一旦鞍部まで下り、そこから月山に登りなおすことになるが、ニッコウキスゲが咲く緩やかな下りが続く山上の散歩道で、縦走路の向こうに雪渓を抱いた月山が雲の中に見える。また、緑の中に一筋続く縦走路には点々と人の群れが見え、姥ヶ岳を下りきった鞍部には十数人の白装束に身を固めたお山参りの人々が見える。金姥と呼ばれる地点。ここで 湯殿山から登ってくる古くからの信仰登山の本道と合流し月山へ向う。カールの下の谷にも点々と人の群れが続き、雪渓には集団登山の中学生の華やいだ奇声が風に乗って聞こえてくる。今が一番の登山シーズン。



姥が岳の山腹を巻く下の縦走路



姥が岳頂上からの稜線上の縦走路  
コバイケイソウの群落

金姥を過ぎるとさすがに集団で登るお山参りの人たちが眼につくようになり、白装束に身を固めた人の群れやそこまでも行かないが、リーダーに連れられたお山参りの人達などとすれ違うよえになり、俄然信仰登山のメッカの雰囲気漂ってくる。

でも、みんなお花畑を楽しみながらのお山参り。陽気なおばちゃんの群れが挨拶の声を次々とかけてくれる。

周囲の山々を背景に山腹に白い棒状の花が林立。コバイケイソウの群落である。

コバイケイソウの花は良く山の写真でもみかるとし、実際何度となく見たことあるのですが、多数のコバイケイソウが山の斜面をバックに咲く様は見たことなく、非常に美しい。

コバイケイソウなど大型の花で美しい高山植物

などと思った事などなかったのですが、珍しい光景にビックリと感動。一人悦にっていました。

姥が岳頂上から約 45 分 カールの雪溪の上部に出る。ここで姥が岳を巻いて谷を横切ってきた道と下から雪溪を登ってきた道が合流する。牛首である。ここから 月山への本格的な登りとなる。月山の山頂の肩にあたる稜線・鍛冶小屋へと登ってゆく。後ろには今越えてきた姥ヶ岳からの縦走路が延々と続いて見え、はるか下に月山湖が霞んでいる。山又山の真っ只中にある事を実感する。ゆっくりとつづら折れの道をのぼりきったところで小屋の前に出る。右手に月山神社を頂上に戴いたこぶが見える広い台地にでる。もうひとのぼりで月山頂上である。そこへ向って登ってゆく。



牛首 姥が岳と月山の鞍部に広がる大雪溪



月山・姥が岳縦走路を振り返って



月山山上 月山神社



月山頂上がのっている広い台地の上も又、数々の高山植物が咲き誇っている。広い台地全体がお花畑できれいなので人が多くいても苦にはならない。

鳥海山が見えないかと探すが、残念ながら今日は遠望がきかず。

頂上は月山神社の神域。社殿が祭られ、頂上に立つにはお祓いを受けて体を清めてからでないとうがれない。ここが信仰登山のメッカであること思い知らされる。さすが多くの登山者はこの社殿のあるこぶを巻いて広い頂上のあちこちで花を楽しんでいる。一方中年の人達を中心にお山参りで登って来たひとたちが、次々この社殿に入ってくる。

月山神社にお参りしたあと頂上の花の台地の一端に座って羽黒山側の山々を眺めながらの昼食。



広い月山頂上周辺



山頂は月山神社神域

2002.7.27

#### 4. 頂上・仏生池小屋・弥陀ヶ原・新八合目登山口

【鶴岡・羽黒山側へ下山】



頂上の稜線を東側にガレ場を下りた広い台地状の斜面には大きな雪渓が広がり  
稜線にはニッコウキツゲの群落がひろがっていました

頂上の直ぐ横にある頂上小屋に立ち寄ってよって仏生池・弥陀ヶ原・新八合目口までの時間を聞く。「2時間ではぎりぎり 登り2時間であがって来たのなら 何とかなるかも・・・」の声に励まされて そのまま縦走することにする。「登山口にはレストハウスもあるし、駐車場もあるし なんとかなるだろう。」

小屋の横から 稜線より少し東側に下って緩やかに右におちている広い台地状の中腹を稜線を左手にみながら北へ下っていく。

この東斜面には雪渓が広く残り、斜面のガレのあちこちにはニッコウキスゲ コバイケイソウやが咲き、足元にはイワカガミ チングルマ そして ウスユキソウが咲いて、右手一団下には広い台地状の月見ヶ原が緑の絨毯を敷いた様に見える。絶好の山上の楽園歩き。ついつい 立ち止まって雪渓や花の写真を取りながらで時間をとってしまう。



縦走路から下の月見ヶ原を望む

もうルンルン気分です時間を忘れる。緑の縦走路に点々と歩いている人が見える。



頂上から北へ お花畑が続く仏生池への広い台地上の縦走路

歩き出して約1時間弱 緑の広い台地の縦走路のむこう広い雪渓が下に切れ落ちたところに小さなこぶを背に小屋が見える。頂上から弥陀ヶ原へ降る中間点 仏生池小屋である。

頂上から、約1時間でニッコウキスゲや高山植物とともに緑の中に埋もれた小屋につく。

小屋の前には写真でよく見た一群の地蔵さんが立ちならび、その後ろに小さな池がある。ニッコウキスゲが美しい。

南側湯殿山から頂上への道では随分白装束のお山参りの人の群れに出会ったが、この弥陀ヶ原への道は少ない。でもこの小屋の前のお地蔵さんには沢山のお賽銭があげれており、この道が信仰登山の道であることを思い出してくれる。





仏生池小屋 近傍で

4時のバスまで 1時間 急がないと間に合わない。  
スピードあげる。緩やかな登り下りの平坦な道なのですが、ゴロゴロした石続く道で時間が稼げない。仏生池小屋の後ろのこぶを登りきると縦走路の前方遠く眼下に緑の絨毯の中に青い小さな池が点々と散らばった台地が見える。その広い広い台地の北のはしに小さな小屋が見える。弥陀ヶ原である。まだ遠い。ゴロゴロ石の道を急ぎ下ってゆくが時間が稼げない。ニッコウキツゲが咲く緑の中を突き進む。



縦走路から 弥陀ヶ原を望む

右の写真弥陀ヶ原奥にホツンとみえる建物が弥陀ヶ原の端に立つ月山御田原参籠所

弥陀ヶ原の月山参詣所が見えてくるところで4時10分前。登ってくる人にバス停のある新八合目までの時間聞くとまだもうちょっとある。ついに断念。ぶらぶら歩きに戻り、弥陀ヶ原の池塘や高山植物の咲く湿原を楽しみながら 月山信仰登山の入口月山御田原参籠所につく。

振り返ると弥陀ヶ原の向こうに堂々とした月山が見える。

参籠所には沢山の白装束姿の人たちが見え、ここがお山参りの宿泊基地になっているようだ。なだらかな草原の向こうに見える月山を見ながら新八合目登山口の駐車場まで降りる。もう足ガタガタの中 4 時 20 分。バスに乗り遅れた。



月山御田原参籠所と御田原参籠所近傍からの月山

ここは駐車場があるだけで もう十数台の車と観光バスが数台いるのみ。タクシーもなし タクシー呼ぶにも遠すぎるし、乗せてくれそうな車もなし。

当て外れであるが、まあ 2 時間も歩けば集落に入れるだろうと気楽な気分で歩き出す。

少し下ったところで帰る準備をしている 5 人の中年のグループに出会う。

鶴岡まで歩くというと笑い転げて「夜中になるぞ」という。

親切にも「ちょっと待って ワゴン車の中を整理して下まで乗せて行ってやる」と。

本当に助かりました。

道は山の中を羽黒山を約 30 分走り、山を抜けてから林と畑の中をさらに走り、約 1 時間で鶴岡の街。その間 集落無し。歩いているとやっぱり真っ暗になっていただろう。

月山・羽黒山を抜け 田園地帯に出るとぼっかり北の空に鳥海山が浮いていました。

地元 朝日町の爺さんと中年の二組のカップルで月山参りの地元の人達でした。

関西人でそのまま鶴岡から新潟経由で東京まで帰るといったらまた笑われました。

本当に人の好い一家の人たちで思いもかけず話が弾みました。

この鶴岡を中心とした月山・羽黒山山麓の庄内平野が種無しの柿の大産地で走っている周りの林がすべて柿園であることなど教えてもらいました。

また、このあたりで取れる枝豆の王「ただじゃ豆」を私が知っているというすっかり喜んで お盆あけには「だだじゃ豆」を関東の親戚や知人が収穫を待ちかねていることや 収穫のほとんどを農協に出したり、関東の知人に送る事などお国自慢に花が咲き、ほぼ 1 時間で鶴岡市の中心街の橋のたもとで降りてもらった。

そのまま歩いている事想像するとほんとただ感謝・感謝です。

「また他をあてにして」と叱れそうですが、最初から宛てにしている訳ではないのですが、いつも 地元の人助けてもらっています。



こんな事もあって スピード登山でしたが 高山植物の宝庫「月山」は本当に印象的な walking でした。

「月山」やっぱり みんなが言うとおりの素晴らしい花の名山

今 ブームの山なので 歩くのも大変かと思いましたが、それほどじゅづつなぎでもなし。

人の多さなど気にならないお花畑の縦走路でした。そして

東北の人情も・・・

唯一の未知の県「山形」だったのですが、これで未知?県も終止符 goo な旅でした。

2002.7.27. 夕

姥沢からの月山縦走 walk を終えて 鶴岡で

鶴岡の中心部の川に沿って散策しながら鶴岡駅へ。 明治の古い洋館建の美しいカソリック教会の建物を見て 鶴岡駅 6 時 20 分の特急に飛び乗り、日本海へ沈む夕日を見ながら新潟へ。

そして 10 時過ぎには柏へ帰り着いていました。

様子も判ったし 次は出羽三山 ゆっくり時間かけて 秋にでももう一度と思っています。



山形県鶴岡市 市街 と 国重要文化財の鶴岡カソリック教会 天主堂

高山植物の咲き誇る月山 walk 【完】

16.2. 月山の花 夏 2002.7.27.

月山の花 夏 アルバム 【1】



月山の花 夏 アルバム 【2】 2002.7.27.



月山の花 夏 アルバム 【3】 2002.7.27.



月山の花 夏 アルバム 【4】 2002.7.27.



山形県 出羽三山  
16. 花の月山 walk 2002.7.27.  
高山植物が咲き乱れる山上の縦走路  
【完】